

過疎でも出来る？過疎だから必要？
視覚から考える

立地適正化計画のススメ



香川県土木部都市計画課

1.立地適正化計画とは

居住や都市の生活を支える機能の誘導によるコンパクトなまちづくりと地域交通の再編との連携により、

『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』のまちづくりを進めていく。

居住誘導区域

人口減少の中にあっても一定エリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域

都市機能誘導区域

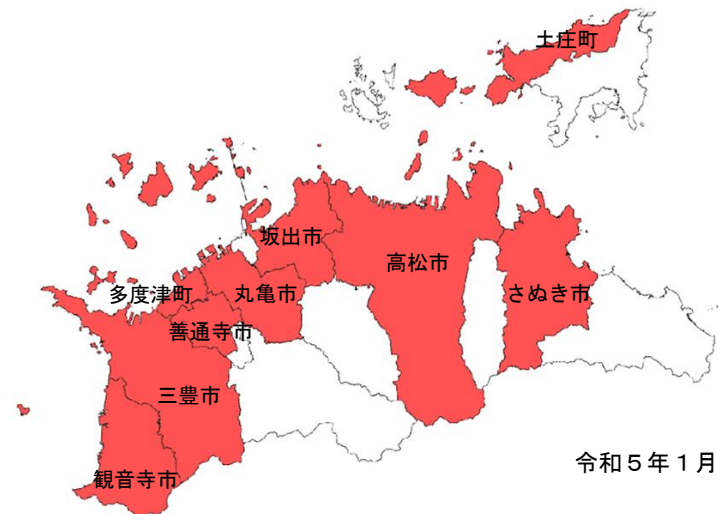
医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域



国土交通省「都市再生特別措置法」に基づく立地適正化計画概要パンフレットより

図中の誘導区域の一定の人口密度の維持を図ることが可能。

香川県内において、
都市計画区域を有する
8市8町のうち、
7市2町が策定
(策定中を含む)



2.立地適正化計画のススメ ～東かがわ市の例～



駅前周辺の整備等がやりたいが何か良い方法はあるか？



それならば「**立地適正化計画**」を作いませんか！？
人口減少が進む現状を踏まえ、都市機能が集約された
コンパクトで持続可能なまちづくりを目指す計画を作ると、
計画に位置付けた事業に対して、「都市構造再編集中支援事業」
などの支援も受けられますよ！

人口が少ない都市においては、今後人口が減少することで
都市機能の維持が将来的に困難になることが予想されることから、
人口密度を維持するという観点で立地適正化計画を作成することが有効

「国土交通省：立地適正化計画の作成に係るQ & Aより」

まずは、現在の状況を視覚的に捉えて
今後について一緒に考えてみませんか？



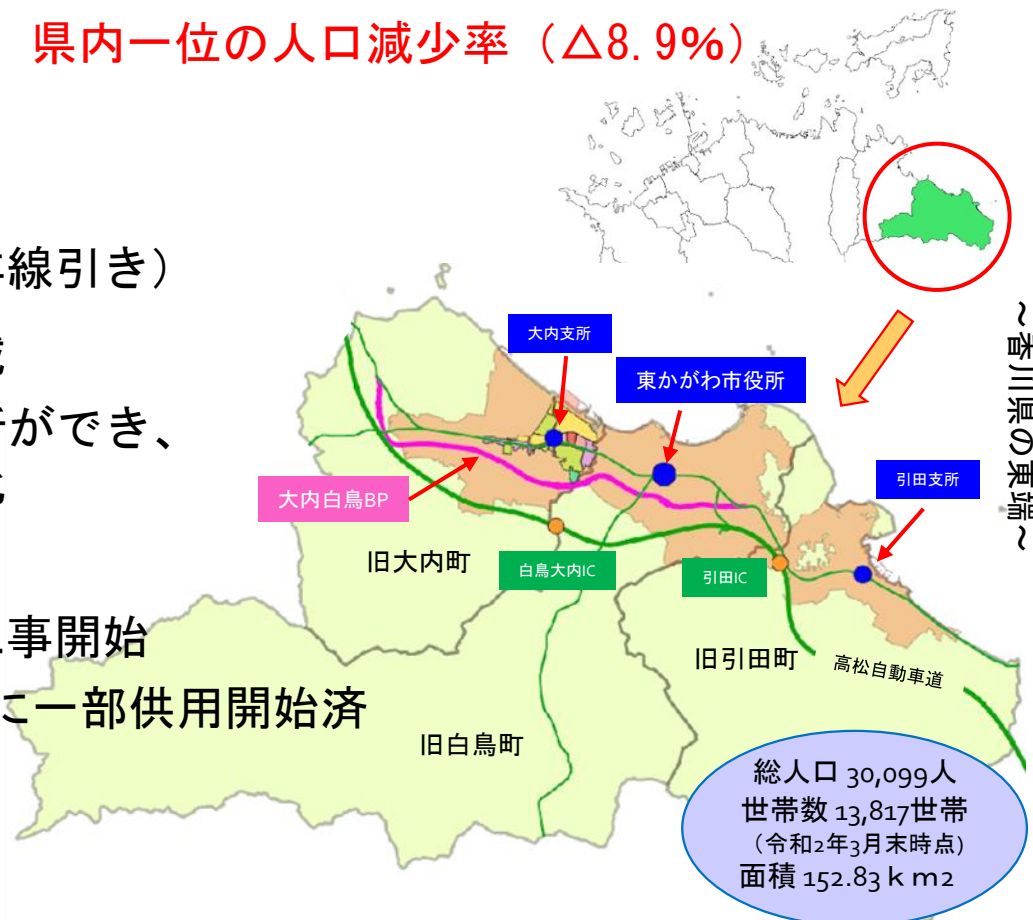
3. 東かがわ市の概要

基礎情報

- ・ 平成15年（2003年）**引田町・白鳥町・大内町**の3町が合併し発足
- ・ 過疎地域自立促進特別措置法の規定する**過疎地域に市域全域**が該当
（県内の市では唯一）
- ・ 令和2年度国勢調査においては、**県内一位の人口減少率（ $\Delta 8.9\%$ ）**

都市計画関連

- ・ 市域の一部に都市計画区域（非線引き）
- ・ 旧大内町市街地部分に用途地域
→ 合併後、旧白鳥町に市役所ができ、
現在はそこを中心に市街化
- ・ 平成20年（2008年）より
国道11号**大内白鳥バイパス**の工事開始
→ 令和3年（2020年）末までに一部供用開始済



4.可視化データの作成 1



人口推移：人口総数 国勢調査（500mメッシュ） 1995年～2020年

1995



補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

2010



補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

2000



補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

2015



補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

2005



補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

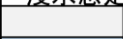
2020

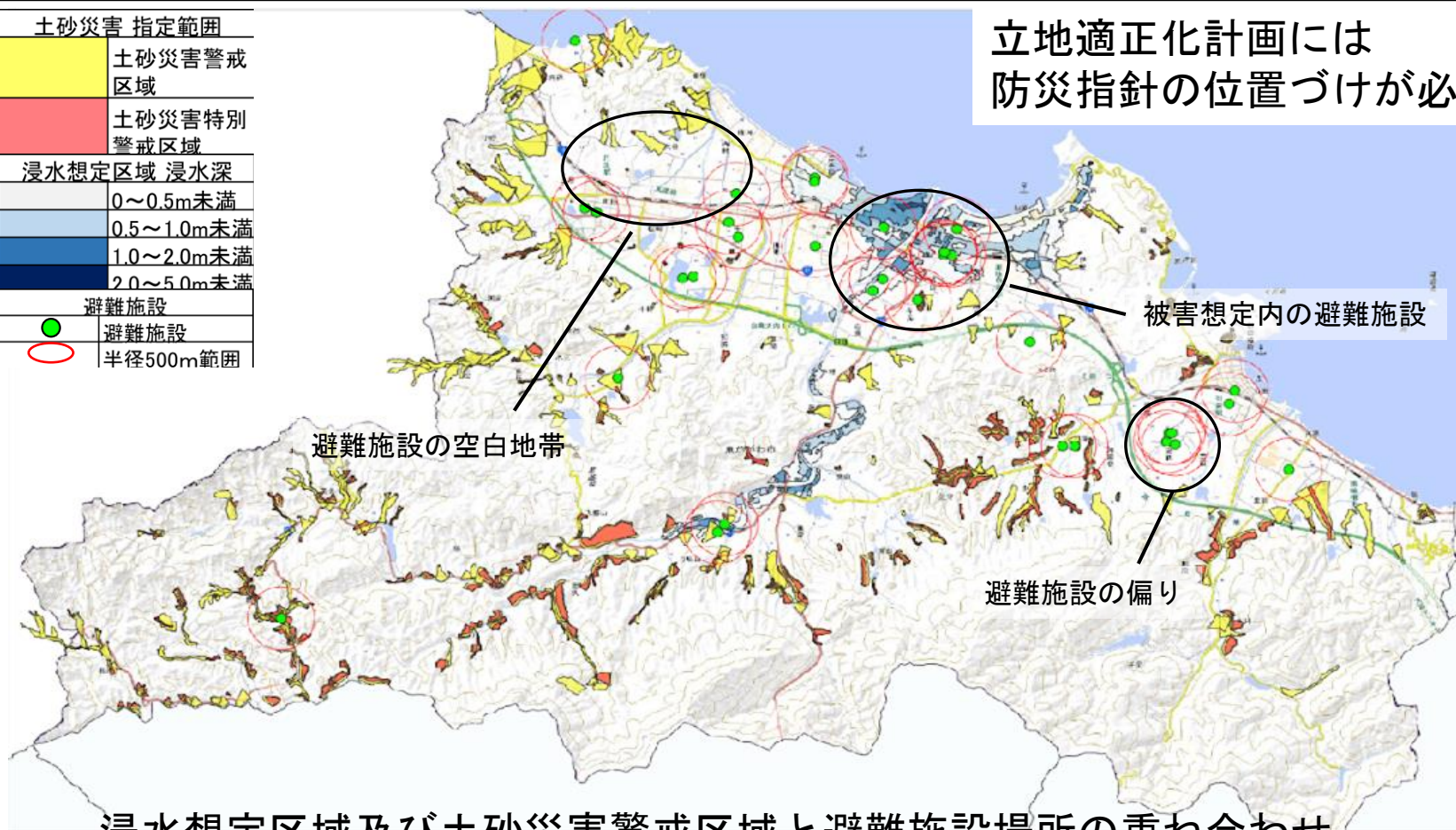


補注：Image©2022 Maxar Technologies Image Landsat／Copernicus、Google Earthを使用

5.可視化データの作成2

災害リスクと避難施設の関係：基礎調査2017年

土砂災害 指定範囲	
	土砂災害警戒区域
	土砂災害特別警戒区域
浸水想定区域 浸水深	
	0～0.5m未満
	0.5～1.0m未満
	1.0～2.0m未満
	2.0～5.0m未満
避難施設	
	避難施設
	半径500m範囲



浸水想定区域及び土砂災害警戒区域と避難施設場所の重ね合わせ

＋徒歩避難可能と言われる500m圏内の表示

補注：地理院地図を使用

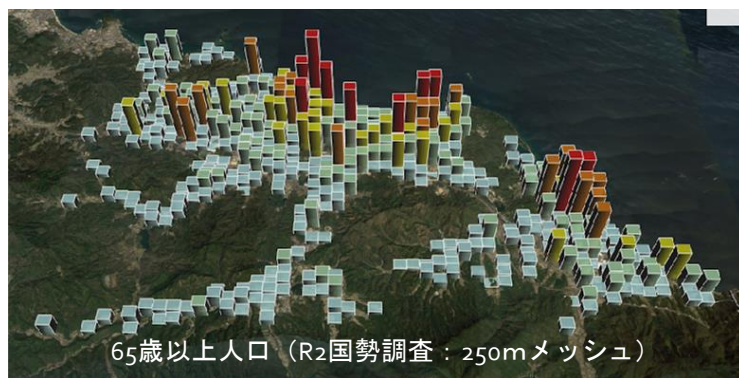
6.可視化データの検証



可視化データを用いて意見交換

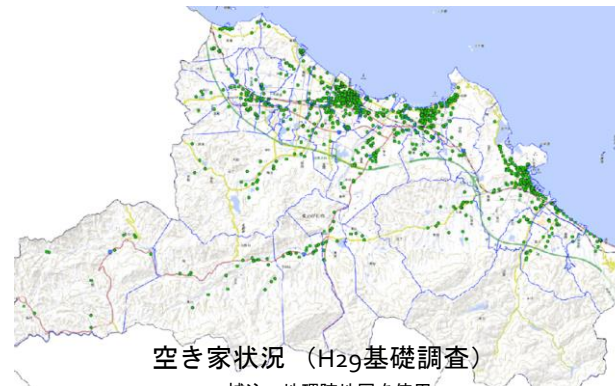
- ・ もっと郊外に人口が増えていると思っていたが、そうではなかった。
 - ・ 郊外の開発は進んでいるが、敷地の大きい戸建て住宅が多く人口密度はあまり増えていない。
 - ・ 中心部はもともとの密度が高かったので、まだ人口が維持されている。

一方、中心部は**高齢者数**や**空き家数**が多く人口減少が加速することが予想される。



65歳以上人口（R2国勢調査：250mメッシュ）

補注：Image©2023 Maxar Technologies、Google Earthを使用



空き家状況（H29基礎調査）

補注：地理院地図を使用

危機意識の再確認のきっかけ作りとしては成功！

今後に向けて...

このまま何もしないというのは将来さらに悪化していく。

人口減少の中でどう**都市集落機能を維持**していくか具体的な検討をすべきでは？

大坂峠（引田）



山田海岸（大内）



誰もが知っている、
ワクワクするまちへ

地域ブランド『ひけた鮓』



ハマチの養殖発祥の地



世界を夢見る
「香川手袋」



手袋生産日本一！
（日本のシェア90％）